

## クアラルンプル大都市圏の開発動向—新行政首都建設を中心として—

愛知県立春日井高等学校 原 眞

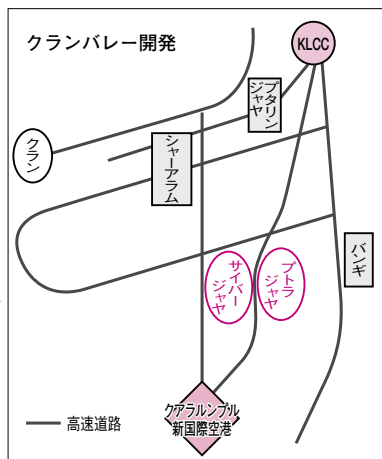
マレーシア（人口 2,453万人、2002年）の急速な経済成長に伴い、首都クアラルンプル（人口 147万人、2002年、統計局）は大きく変貌している。その影響を受け、早い段階から西郊を中心に工業機能が強いニュータウンが建設されるなど大規模な地域開発が州・連邦政府主導のもとに実施されてきた。

近年、深刻化を増す首都の大都市問題を改善し、将来を見据えた首都機能のより拡充を推進するため、都市の大改造とともに郊外に首都機能の分担をめざす壮大な計画に基づき、新行政首都・プトラジャヤが建設されている。

### クアラルンプル大都市圏の開発動向

〔クランバレー開発—多核的・分散的都市化〕マラッカ海峡から約30km内陸部に位置する首都と外港機能を有するクラン間を中心としたスランゴール州4郡は、クランバレー計画地域とよばれる。1974年にクアラルンプルが連邦直轄地へ移管され、政府の開発プロジェクトに位置づけられ開発が本格化した。

首都と港湾を結ぶ連邦ハイウェイ建設、プタリンジャヤ、シャーアラム、バンギの3つのニュー



ータウン造成、さらに、1986年以降、マハティール新政権の高度経済成長政策により、外資導入による輸出指向型工業開発が積極的に行われた。その結果、クランバレーは1990年代に激しい工業化・都市化によりコナベーション化が著しく、発展途上国では稀な独自の多核・分散型大都市圏が形成された。

〔MSC計画—アジアのシリコンバレー〕1991年、連邦政府は、国家開発計画「2020ビジョン」を設定して、「2020年までにマレーシアを先進国社会にする」大きな政策目標を掲げた。ビジョンの一環であるマルチメディア・スーパー・コリドー（MSC）計画は、IT社会化をより一層促進し、IT、マルチメディア技術を核として、マレーシアの産業構造高度化を推進することを目的とする。連邦政府により1994年に提案され1996年から実施。

計画地域はクアラルンプル南に南北約50km、東西約15kmに広がり、シンガポールの大きさにほぼ匹敵し、大部分は丘陵地帯である。かつてのパームオイル農園や錫鉱山の跡地をおもに利用している。

新時代をリードする観点から、世界のハイテク関連企業を誘致する計画。先端技術や施設を備え、多国籍企業や研究開発センターとして、国内外の主要都市と結ばれ、将来的にはマレーシアの主要都市は、マルチメディア・スーパー・コリドーの地域センターとしての発展を図ることになる。

主要プロジェクトは、①クアラルンプル新国際空港（1998年開港）、②クアラルンプル・シティセンター建設など都心部の大改造、③プトラジャヤ・新行政首都の建設、④サイバヤ・ITニュー

タウンの建設である。国家の中核である首都圏機能の強化をめざしている。

### 新行政首都・プトラジャヤの建設

プトラジャヤは、初代首相の名に因んでいる。最初で本格的な「マレー人によるマレー人の都市建設」としての強い国家的意図が織り込まれ、21世紀に向けた未来都市の実験として、世界的に注目を集めている。

首都クアラルンプルは、植民地化の過程で形成された華人中心の特異な多民族都市であり、近年、慢性的な交通渋滞と住宅問題の悪化、増大する不法移民、さらに連邦政府機能の市内での点在などによる行政機能の非効率化の課題が顕著となっている。プトラジャヤの建設は、その抜本的対策として、また同時にM S C計画の一環で、I T政府実現の基盤整備を推進する意図である。プトラジャヤは、M S C計画地域のほぼ中間点で首都市街地から南に約25km、新国際空港から北へ約20kmにある。それぞれ高速鉄道と高速道路で直結されている。

1993年5つの候補地からプトラジャヤが選定され、開発計画が始まる。1995年プトラジャヤ開発計画と連邦政府の移転が閣議決定され建設開始。1999年には首相府やオフィスなど移転。翌2000年に財務省、科学・技術省、外務省などの移転。連邦政府機関の移転完了後も、連邦議会・最高裁判



プトラジャヤの中心部<首相官邸(左)国立ブトラモスク(右)>

所が残留し、クアラルンプルは首都として存続。2010年に開発終了の予定である。

プトラジャヤの計画人口は33万人（政府関係者約7.6万人）、労働人口は、政府関係76,000人、民間関係59,000人が見込まれている。面積14,780haのうち都市計画区域が4,581ha（政府機関5.3%、居住地域25.8%、公共施設10.1%、公益事業体とインフラ18.2%、商業地2.9%、市民・文化地域0.2%、緑地・人工池37.5%）。開発地区は、中心部5地区（北から政府関係、複合開発、文化、商業、スポーツ・リクリレーション）と周辺15地区から構成。中央部には人工湖のブトラ湖（650ha）、住宅・公園・緑地などは丘陵部を巧みに利用している。

### 新行政都市ウォッチング

プトラジャヤへは、首都の中心市街地から高速道路で向かい、約30分で中心部に到着。途中、激しく変貌する周辺部を車窓から眺める。ブトラ湖畔の荘厳な国立ブトラモスクを見学し、イスラム調の堂々たる首相官邸など間近に見る。湖畔の丘陵に広がる熱帯植物園からも、湖にかかる美しい橋、モダンな住宅、緑地・公園が眺望できる。歩道の小道など新都市建設としての効率性、美観、生活環境にもよく配慮された「ガーデン・シティ」でもある。

開発独裁ともいわれてきたが、卓越した理念と手法により、巨大プロジェクトを強力に推進するマレーシアの国家的パワーを実感し、急速に進む首都圏の地域構造再編成の動向に認識を深めた。

#### 参考文献

- 生田真人(2001)：『マレーシアの都市開発』古今書院  
布野修司(2003)：『メガ・アーバニゼーション』『アジア新世紀・8 構想』岩波書店。  
Integrated Consulting Network in co-operation with Perbadanan Putrajaya(2001)：『PUTRAJAYA A LIVING LANDSCAPE』